

■大石久敬 一揆で大庄屋から流浪の身となり、30年放浪の後、江戸時代で最も優れた地方書「地方凡例録」を著した。

おおいしひさたか

・ ・ ・ ・ ・ 1725 = 筑後国久留米城島村で、藩士古賀貞房の第5子に生まれる。

享保大飢饉・1732 = 7歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1734 = 9歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1741 = 16歳 : 同村の大庄屋大石貞治紹久の婿養子となり、勘治久敬と名乗る。

・ ・ ・ ・ ・ 1743 = 18歳 :

のち、大庄屋役を継ぎ、

徳川吉宗隠居1745 = 20歳 :

徳川吉宗没・1751 = 26歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1752 = 27歳 :

山脇東洋解剖1754 = 29歳 : 領内の大庄屋・豪農、御用商人などを攻撃する大一揆が起こり、百姓数万人が強訴。藩は農民側のいい分を受け入れ、大庄屋25人を閉門処分としたうえ、御拝郡御井村の大庄屋高松八郎兵衛を処刑する。この処分は、藩が幕府の戒告を恐れ、久敬ら5人の大庄屋にくじ引きで受刑者を決めさせた結果とする説もあり、処分を不当として、親戚と相談のうえ出奔、

以後、諸国を流浪し、

大岡忠光没・1760 = 35歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1761 = 36歳 :

九州各地を経て大坂から京都に出て清閑寺秀定の青侍となり、次いで多くの公家に仕えたのち、

錦絵始・ ・ ・ 1765 = 40歳 : 結婚。

近江・信濃・甲斐などを遍歴、江戸に入る。この流浪の間に農学、農政に精通したという。

・ ・ ・ ・ ・ 1770 = 45歳 :

田沼意次老中1772 = 47歳 :

源内獄中死・1779 = 54歳 :

蘭学階梯・ ・ 1783 = 58歳 : *江戸で旗本の手代などを勤めていた時、高崎藩士山本勘十郎の推挙で、農政に明るい人物を探していた藩主松平輝和に抱えられる。馬廻格で農村差配の郡方に配属され、

田沼意次失脚1786 = 61歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1788 = 63歳 : *郡奉行に昇進。

混浴禁止・ ・ 1791 = 66歳 : *藩主松平輝和から、地方農政の沿革の著述を命ぜられ、「地方凡例録」全16巻の著述にとりかかる。

松平定信引退1793 = 68歳 :

ワヅダ 正月・ 1794 = 69歳 : *11巻分の献本を終えたところで没し、残り5巻は未完のままとなった。